

イデコ
**iDeCo【個人型確定拠出年金】
始まりました!**

ファイナンシャルプランナー
深川 恵理子



自分で運用商品を選び、毎月決まった金額を積み立て将来の年金にするiDeCo(イデコ)が1月から始まりました。individual-type Defined Contribution pension planの略だそうです。「i」には「私」という意味が込められており、**自分で運用する年金**ということを表しています。でも、まだまだご存じない方も多いようですので特徴をまとめてみました。

1. 60歳未満のすべての方が対象者(但し、基本的に公的年金制度に加入)

今までは、自営業者(個人型)や会社員(企業型)の一部に限られていましたが、専業主婦、公務員と基本的に公的年金制度に加入している60歳未満のすべての方が対象になりました。また、企業年金を実施している企業にお勤めの方は、お勤め先が規約でiDeCoへの加入を認めている場合のみ加入できます。

2. 所得税・住民税の節税

iDeCoでは、毎月積み立てする掛金は全額所得控除。つまり非課税扱いとなり、結果として大きな所得税・住民税の節税効果が期待できます。

3. 運用で出た利益は非課税に!

預貯金の利子でも税金はなんと20.315%。iDeCoで利益が出た場合は、その全額が非課税となります。

4. 掛け金拠出の休止・再開は自由

iDeCoは、途中で自由に休止することができます。当然、その間は掛け金は増えませんので、節税のメリットは受けられません。しかし、何もしていなくても口座管理手数料はかかりますのでご注意ください。また、増額・減額はできますが、4月から翌年3月までの間で年1回しか変えられません。

5. 自分の裁量で運用ができる

公的年金では、運用先を自分の意思では変更することができませんが、iDeCoでは運用を行う金融機関を自分で選べ、「預金」や「投資信託」「保険」など自分の考えで商品も選んで運用することができます。よって運用商品を決める最終決定者は自分自身となります。しかし、ご自分で運用商品を選ぶことはなかなか難しいことではないでしょうか。また、どこの金融機関を選ぶかもまた問題になってきます。

6. 60歳以降でないと受け取ることが出来ません。

iDeCoは、年金の運用期間中に転職・離職をした場合でも、それまで運用していた年金資産をそのまま持ち運び、転職先で今まで通り運用を引き継ぐことができます。

しかし、60歳以降でないと受け取ることができません。手を付けられないので、貯まりやすい反面、どうしてもお金が必要だという時には役に立たないものになってしまいます。また、受け取る年金額も運用次第で確定していません。

iDeCoには、メリットもデメリットもありますので、他の資産と複合的に考え、上手に使っていただきたいと思います。資産を分散させることは、投資をして行く上で最も大切なことです。iDeCoはまだ始まったばかりですし、なにより分かりにくい点も多く、「運用商品を自分で選ばなければならないけれど、さっぱり分からない。」とみなさん困っていらっしゃいます。始められる前に、まずは一度ご相談下さいね。

知れば知るほど! ナルホド金融経済

トランプ新大統領のアメリカ

ファイナンシャルプランナー

松下 新



ドナルド・トランプ氏が第45代アメリカ大統領に就任しました。アメリカ大統領というのはそれは偉大で国民から尊敬される人であるとされており、今回の就任式は歴史に残る異常なものとなりました。かつてない異質な大統領の誕生に世界が注目していますが、私なりの考えをまとめてみたいと思います。

「メイク アメリカ グレート アゲイン」で労働者階級から絶大な支持を得て当選した新大統領ですが、彼が就任初日に実行すると言っていたのは以下の通りです。

1. NAFTA再交渉
2. TPPからの撤退
3. 中国を為替操作国に認定
4. 貿易相手国の不正操作開始
5. 米国内のエネルギー開発規制の緩和
6. インフラ投資(キーストーンパイプラインなど)
7. 国連の温暖化対策への資金拠出撤回

更にオバマケアの見直しの指示などすべてではなく良し悪しも別として有言実行のところは認めるべきなのかもしれません。規制緩和は金融にも及び、リーマンショックで痛んだ銀行にドットフラック法という規制を敷いていたのを撤廃の方向で検討しており金融界には朗報です。ただ、あれほどヒラリー・クリントンにウオール街の言いなりと言っていた本人が財務長官をウオール街から引き抜き、金融界に都合の良い事を検討しているのはなぜなのか。財務長官がゴールドマンサックス出身とあれば、実際のところはウオール街や実業界の重鎮たちと仲良くビジネスをしていくのではないかと考えてきま



す。現に国務長官にはエクソンモービルの CEO であるティラーソン氏を起用しています。結局のところ彼は経営者であり労働者を使って事業を行ってきた人物。いきなり労働者の味方になれるのか。トランプ政権が3Gと呼ばれ Gazillionaire(大富豪)、Goldman Sachs(ゴールドマンサックス)、General(将軍)で成り立っている事から選挙中の労働者の味方であるかのような態度が一変する可能性すらあると思っています。

ところで新大統領の経済政策は旧態依然とした減税とインフラ投資による景気刺激策の域を出ないところが気になります。昨年、日本の経済書で人気の高かった「人口と日本経済」吉川洋著(中公新書)によれば経済成長は人口の増加に関係なく生産性、イノベーションにあると説いたのは記憶に新しいですが、トランプ大統領の経済政策ではこの生産性の向上やイノベーションがありません。移民労働者や海外生産で職を追われたアメリカの労働者たちに職を取り戻すという聞こえの良い政策の盲点です。つまり、減税と投資という昔ながらの政策だけでは新たな価値を創出できず、いずれその政策は壁にぶつかるリスクをはらみます。

自由貿易から保護主義へとシフトする今、世界は混乱し、中国を刺激し、NATO(北大西洋条約機構)を疑い、貿易戦争を煽る新大統領をあるアメリカのメディアは単なるニヒリズムだと一蹴しています。未経験の外交政策分野では軍事行動においてロシアとIS 絶滅を目指すのは良いとしてもNATOを重要視しないのは問題です。今年には各国の選挙で欧州が荒れる一年。アメリカと欧州は西側諸国として手を組むパートナーであるべきです。

東アジアにおいては尖閣での中国の行動を批判したかと思うと米軍の日本からの撤退をほめめかすなど理解に苦しみますが、国防長官にマッドドッグと呼ばれるマティス元中央軍司令官を任命させた事はかなり強硬路線を強いると見て良いでしょう。我が国においては自国の安全を米軍に頼るだけでなく、沖縄の重要性を含め自衛隊の強化など自己防衛を真剣に考える良い機会が訪れたと思うべきであると考えます。

新大統領は人の意見はしっかり聞くとされています。結論を出す前にしっかりと耳を傾け、最良の判断をしてもらいたいものですね。

トライアスロン奮闘記

～湘南藤沢市民マラソン～

代表取締役
榊原 弘之



昨年からは開始したトライアスロンのトレーニング。春のシーズン到来に向け、この冬の時期をどう過ごすか。トレーニングの一環として地元藤沢開催の「湘南藤沢市民マラソン」に出場して参りました。距離は10マイル。およそ16km。こうした小さなチャレンジが一つの目標となり、トレーニングの継続を助けてくれます。申込みをしなくては始まらないということで、昨年の9月に申込み。体重も4kgほど絞り、無事スタートラインに立てたことで、満足度8割。目標は「歩くことなく完走」すること。持病の首痛に加え、練習での膝の故障など不安要素も多々ありましたが、まずは楽しもうとスタート!



風光明媚な江の島からスタートし、湘南海岸を走るフラットなコース。海風に吹かれながらも、多くの参加者や沿道の応援の方に励まされ、足取りは軽く。途中、給水所では地元ボランティアの子供たちに「がんばれ～」と声をかけられ、無事「歩くことなく完走」致しました!記録は1時間24分。初めてのマラソンにしては好タイムと自画自賛。いずれはフルマラソンにもチャレンジしてみたいですね!

体を鍛え、心を鍛え、走る楽しみを味わいながら健康になる。有酸素運動のメリットもあるマラソン。走ることで体内では血液中で余っている糖分や脂肪を、酸素を使って燃焼・消費してくれます。走る距離によっては蓄積した内臓脂肪も消費でき、生活習慣病の改善にも繋がると言われています。しかし、走ることで心臓や肺に負担をかけ、関節痛などの整形外科的な心配もあります。絶対に無理をしないことが大切。日頃の健康管理や体力づくりがより重要だということです。マラソンが健康に及ぼす影響も「過ぎたるは及ばざるが如し」と言うわけですね。



心と身体とお金を健康にする為に

ファイナンシャルプランナー
佐藤 弘美



2017年 数秘学で見ると9年サイクルの中の始まりの「1」の年です。

このスタートの年からアルシアコンサルティングの一員になりました「心と身体とお金を健康にする笑顔のライフプランナー」の佐藤弘美です。

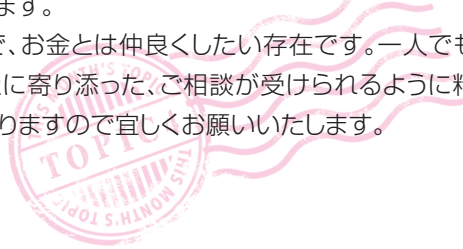
前職はメットライフ生命からスタートし代理店のライフプラザパートナーズなどで、多数の保険会社を扱ってまいりまして、業界経験は12年になりました。毎年新しい

商品が出たり税制が変わったりで、日々の勉強はいくつになっても続いております。若い頃はファッションデザイン科



を卒業後、洋服、バッグ、革小物のデザインをしたり、企画しておりました。良い物や好きな物を宣伝するのが大好きなので、靴のブランドのプレスの仕事もしてました。今はデザインでもお客様のライフデザインのお手伝いをさせていただいております。これにはパートの経験もとても活かされてまして、ケーキ作りの趣味からカフェのデザート作り、ドラッグストアでの化粧品の新商品の担当、家具やインテリア雑貨の販売など、どれも楽しい仕事でした。これらの経験はお客様との会話にも役に立っております。

人生の中で、お金とは仲良くしたい存在です。一人でも多くのかたに寄り添った、ご相談が受けられるように精進してまいりますので宜しくお願いいたします。



体質改善計画進行中!!

ファイナンシャルプランナー
堤 太郎



私は昨年5月2日に禁煙を決意するまで、15年以上喫煙者として生活していました。学生時代は長年バスケットをしており、身体も頑丈で特に悪いところもなく、健康に対する意識や有難みも分からず過ごしてきました。そんな自分が生意気な題名でコラムを書くことに少し引け目を感じますが、喫煙をやめて以来自分の身体や身の回りでの“変化”を良い意味で感じられています。今回は自分自身の実体験に加え日本における喫煙環境の変化や喫煙が健康に及ぼす影響等について記述したいと思います。



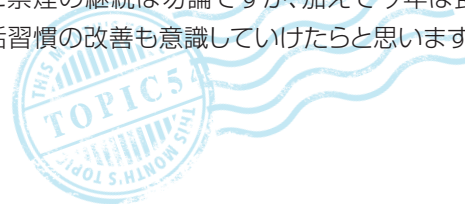
私は1980年生まれで今年37歳になりますが、生まれた当時の日本人の喫煙率は成人男性で70.2%、成人女性で14.4%(JT全国喫煙者率調査)でした。その後年を追うごとに喫煙率は下がり続け、平成28年度では成人男性が29.7%、成人女性が9.7%となっています。最近では喫煙できる場所やお店も限られてしまい喫煙者にとっては肩身の狭い状況ではありますが、私が子供のころ飲食店は勿論、職員室もタバコの匂いがした記憶があります。今回調べるまで知りませんでした。男女合わせると成人の約2割程度の喫煙者人口になっています。

私が喫煙をやめた理由ですが、きっかけは俗に“ヤニくら”という、喫煙経験者であれば誰もが経験のある症状です。初めて喫煙した時や、久しぶりに喫煙した際に起こるめまいのようなものです。たまたまですが1日づ

りの喫煙でこれまで感じたことの無い程強い“ヤニくら”を感じてしまい、その一本を最後に禁煙を決意して今日に至ります。その後特に禁断症状もなく生活できていますが、身体の変化として一番感じるのは“呼吸が軽い”ということです。喫煙していたころは何かのどに引っ掛かったような感覚がありましたが、今では全く無くなりました。日常生活でも喫煙場所を探す事や、タバコを扱うコンビニを探すといったストレスからも解放されました。禁煙してからのデメリットはというと、勝手ですが他人のタバコの匂いが苦手になったということでしょうか。(笑)

禁煙からすぐに感じるメリットは上述の通りですが、将来的なメリットでいうと一番は発がんリスクが下がるということだと思います。厚生労働省の発表によると男性の喫煙者の肺がんでの死亡リスクは非喫煙者の4.5倍になるそうです。(女性は2.3倍)がん以外にも心筋梗塞、脳卒中ともに非喫煙者に比べ1.7倍の危険性があるそうです。

15年以上にわたり習慣的に喫煙を繰り返してきた事を考えると発がんリスクや心疾患、脳血管疾患のリスクがすぐに減るとは思えません。「今度自分が保険に加入するときは“非喫煙優良体”として加入する。」そんな目標を胸に禁煙の継続は勿論ですが、加えて今年は食生活や生活習慣の改善も意識していけたらと思います。



差出人・連絡先

アルシアコンサルティング株式会社

〒251-0023 神奈川県藤沢市鶴沼花沢町2-3 PHビル2階
TEL: 0466-54-8417 <http://www.arxia.jp/>

掲載内容等に関するお問い合わせは各担当営業まで。
禁無断転載 Copyright Two Way Communications Inc.